

岡山県出身旧軍人・軍属等の地域別戦没者数（日中戦争以後）

（単位：人）

地 域 別	陸 軍	海 軍	計
中部太平洋	9 8 7	2, 1 2 2	3, 1 0 9
フィリピン	9, 2 9 7	3, 0 5 5	1 2, 3 5 2
沖 縄	1, 5 0 8	7 3	1, 5 8 1
タ イ	8 2	0	8 2
マレー（マレーシア）	3 5 9	7 9	4 3 8
ビルマ（ミャンマー）	5, 2 4 9	8 9	5, 3 3 8
インドネシア（ボルネオを除く）	7 4 8	2 3 2	9 8 0
ソロモン、ビスマルク諸島	3, 3 0 5	8 1 7	4, 1 2 2
ニューギニア	1, 3 5 8	3 7 9	1, 7 3 7
ボルネオ（カリマンタン）	5 9 6	1 9 1	7 8 7
仏領インドシナ（ベトナム、ラオス、カンボジア）	7 2	4 6	1 1 8
中国本土（満州を除く）	7, 0 3 7	3 1 0	7, 3 4 7
台 湾	2 8 9	2 2 0	5 0 9
ソ 連	8 9 2	8	9 0 0
満 州	2, 5 6 0	1 3	2, 5 7 3
朝 鮮	4 9 1	6 4	5 5 5
千島、樺太、北太平洋	1 6 6	2 3 9	4 0 5
内 地	5, 8 2 0	2, 3 3 3	8, 1 5 3
その他	5	1 9	2 4
計	4 0, 8 2 1	1 0, 2 8 9	5 1, 1 1 0

<概況>

日中戦争以後の地域別戦没者数を見ると、フィリピンが一番多くなっているが、これは昭和19年（1944）10月、米軍がフィリピン侵攻作戦によりレイテ島に上陸し、フィリピンの島々を次々と攻略していったとき、本県出身の兵士が主としてルソン島に駐留しており、米軍の猛攻撃により多くの犠牲者を出したことによるものである。

また、中国本土での戦没者は、日中戦争以来8年にわたるもので、その半数は郷土部隊の歩兵第10連隊であると思われる。なお、満州地域の戦没者は、戦争末期に現地召集され、装備の極めて不良な状態で第一線に駆り出され、指揮系統の全く混乱した状況の中で壊滅させられた人々がその大部分を占めている。

また、内地戦死者の多くは、戦地から送還された戦傷病者が陸海軍病院で死没したものである。

（「戦後50周年記念 援護の歩み」（岡山県）から抜粋）